

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391100062		
法人名	コンフォートライフ合同会社		
事業所名	グループホーム やかた		
所在地	岩手県釜石市大町3-9-16		
自己評価作成日	平成26年10月30日	評価結果市町村受理日	平成27年3月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0391100062-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内		
訪問調査日	平成26年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年3月11日東日本大震災で被害を受け、それでもこの地で暮らしたいという希望に応えられるよう、そしていつでも安心して心地よい生活が送れるよう、「ほっと一息、ぬくもりのある“やかた”」を介護理念に支援させて頂いています。
本人らしい生活が維持できるように、個々の希望や状況に合わせたケアを心がけています。利用者や家族、職員や支援関係者、更に地域の方々と共に励ましあいながら支援できるような関係作りを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.東日本大震災で被害を受け、住み慣れた釜石市を離れて暮らしている避難者が、ぜひ釜石市で暮らしたいとの希望に応じて開所されたグループホームであり、利用者の願いが十分に満たされている。
2.管理者と職員との信頼関係が強いことで、支援の向上につながっている。
3.夜間訓練を実施し、協力員の応援を得られている。また、津波等の実体験があり、津波注意報発令の都度、避難している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念(ほっと一息ぬくもりのある“やかた”)の玄関への掲示のほか、介護目標(下半期“一日十笑”)も掲げ、どちらも毎朝の申し送り時に復唱している。 理念、目標ともに職員で話し合い決めている。	経営理念を基に、職員で策定された介護理念が玄関に掲示されている。介護目標も半期ごとに定めて毎朝申し送りの時に復唱し、共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、同町内会子育て支援センター主催の「ハロウィン」に参加させて頂いたり、市の「祭り」や「よいさ」、近隣地域での「夏祭り」など、イベントには積極的に出向いている。	町内会長が運営推進委員となっていて、地域の情報が直接入ってくることから、地域の行事にも積極的に参加している。グループホームからも広報、回覧版などで情報を発信し、認知症の理解を得られる活動をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議の出席者(町内会長や民生委員の方々)には、会議前に利用者や職員と一緒に昼食を取って頂き、現状と対応の理解を図っている。避難訓練にも町内会の方々に参加頂き、車椅子の操作法なども説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では利用状況や活動状況、事故状況などを報告し、頂いた意見をサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	利用者の代表委員は、小規模多機能事業所と、グループホームとで交替で参加している。警察署、消防署の職員の参加も呼びかけているが、業務の都合で欠席となっている。会議前に利用者と昼食をともにし、事業所で生活する様子を理解してもらおう工夫をしている。委員からの提案で「ニヤリにつきり事例」を収集中であり、今後、報告予定としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との書類は、市役所内設置の担当箱を使用することになっており足を運ぶ機会が多く、その際に、担当職員等と情報交換を行っている。	市の担当部所職員が運営推進委員となっており、情報交換が図られている。市担当課に各施設専用箱が設置され、その確認時に定期的な市役所担当者等と情報交換が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今年は「岩手県高齢者権利擁護推進員育成研修会」に職員が参加したことで、事業所全体で身体拘束についての研修課題(言葉による身体拘束)に取り組む事が出来、職員全体の意識向上に繋がってきていると思われる。	毎月、第4金曜日に会議を持ち、身体拘束についても課題として研修し、特に、言葉による拘束について取り組むことができ、職員全体の意識向上が図られた。現時点で身体拘束を必要とする利用者はなく、体調不良により点滴の必要が生じた際でも、職員による定期的な見守り対応としている。外部研修の伝達は、毎月の全体ミーティングで実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	下半期の介護目標を“一日十笑”(イチニジュウシヨウ)とし、職員間で気になる言葉や態度は、マイナスポイント(「-3だよ」など)で声を掛け合うなど、注意しやすい環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際利用者で日常生活自立支援事業や成年後見制度を利用されている方も。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い納得を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口として事業所管理者の他、包括支援センターにも設けている。 苦情以外でも家族や町内会長、民生委員などの参加がある運営推進会議を通して報告し運営に反映させている。	利用者、家族代表者は、運営推進委員となっており、意見・要望について、自由に発言できるよう配慮している。家族が面会に来訪した時にも意見・要望を聴取するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員全体ミーティングで業務内容やケアについてなど様々な内容について検討、議論を行っている。	職員の発案により、食材の購入先を追加するなどしている。管理者と職員の信頼関係が強く、チームワークによる利用者のチームケアに良い効果を生んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力を評価し、向上心ややりがいにつながるように労働条件や職場環境の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外に問わず、研修や講演へは積極的に参加を進め職員のケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生などの受け入れは行っている。また、外部講師の研修がある時には、他同業者の方々に声を掛け、勉強会に参加して頂く事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に訪問し面談にて本人又は関係機関などから聞き込みを行い、可能な限りの不安を解消したうえで利用していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に訪問し面談にて家族から聞き込みを行い、共に支援して行けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前に当施設の見学をして頂き、必要なサービスの説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立を促しながら、一緒に調理や掃除など行いながら、より良い関係が築ける様努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を大切にし、常に連絡が密に取れるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人など家族以外の方との面会も自由にできる様に支援している。	買い物、利用前から行きつけの美容院、自宅を見に行きたい要望など、利用者本位で支援している。利用者の安否が分かり、知人が訪ねてくることもあるなど、馴染みの場や人とのつながりが復活してきている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペースでの座席や各居室配置にも配慮して良好な関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に本人、家族の希望に添えるよう、相談・支援が継続出来ることを伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話を大切にしよう努め、その日常会話の中から希望や意向などを聞き取っている。	センター方式により思いや意向を記録し、職員の共通理解につなげている。日常生活の会話の中から一人ひとりの意向や希望を引き出すようにしている。買い物に行きたい、晩酌[梅酒]がしたいなどの要望に対し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、前ケアマネージャーなどからも可能な限りの情報を提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能の維持に努め、見守り声かけを行いながら、個々にあった生活が出来る様に心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの希望や意向を踏まえ、各居担職員でカンファレンスを行い、介護計画に反映している。 家族が面会に来られた時には話す機会を持つよう心がけている。	本人からは、日常生活の会話の中から、家族からは面会時に意向や要望を聴取している。各居室担当者からの情報を共有し、介護計画に反映している。月2回の往診を受けているので、医療面の情報も共有しながら介護計画を作成している。担当制をとっており、見直しは半年ごとに行っている。入居時、喉に支障があるため家族からミキサー食を希望され対応したが、現在は普通食に改善されている事例がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケア記録の記入を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買物以外でも手芸仲間の集いへの参加や美容院など、本人の希望に添えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店街への外出、外出が困難な方へは出張美容室などで対応している。その他、食事や入浴なども本人の状態に応じて対応するよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて適切と思われる医療機関を家族と話し合い決めている。体調不良時は早めに家族と連絡を取り受診するよう支援している。	市内の訪問診療専門医が月2回訪問しており、利用者のうち6人がかかりつけ医としている。協力医をかかりつけ医とする利用者もある。家族対応が難しい場合は職員が通院対応し家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日血圧、体温の測定を行い健康管理に努めている。看護職員と常に情報を共有し、心身共に変化の見られたときは適切な受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い安心して療養できるよう努め、退院後の対応なども指示頂けるような関係作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護に対する指針も作成し、家族の意向も十分に配慮しつつ、本人らしい終末期を迎えられるよう家族・主治医との連携を密にとりチームで取り組んでいる。	「ターミナル(終末期)ケア及び看取りに関する指針」を策定した。地元で生活したい思いで利用しているため、多くの利用者・家族が事業所での看取りを希望しており、職員もそのつもりで対応している。26年5月に往診専門医の対応も受け、看取りを行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、看護師(職員)や救命士を招いての研修を行い対応を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	実際に夜間消防訓練を実施し、その際にも地域住民の参加を頂き連携を図っている。津波非難場所の近隣集会所ではいつも地域の方々の協力を頂いている。	災害時の協力員6名(運営推進委員3名、近隣住民3名)を委嘱し、実際の夜間消防訓練にも、参加協力していただいた。津波注意報が出ると避難場所まで地域の方々の協力を得ながら避難している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人のプライバシーは保護し、決して自尊心を傷つけたりしないよう言葉使いや態度などを考慮しながら支援している。	経営理念にもある「安心と尊厳のある」生活支援を心掛けながら対応している。ミーティングで、言葉遣いや、接遇などについて話し合っている。入浴、排泄時の声がけには特に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添いながら何気ない言葉や態度、話から思いを汲み取り支援できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムに合わせてくつろげる環境をつくれるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時など好みの物、普段から愛着を持って着ているものを観察し、本人にも選んでもらえる機会をつくる様支援している。美容師にも来て頂いているが、希望があれば他の美容院への送迎も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いのある方には代替え食を用意したり、おかゆや刻み食、ミキサー食など状態に合わせた食事を提供している。調理や片付けなども自分達の役割と決めて行って下さっている。	料理の下ごしらえ・後片付け、時には漬物やおやつのお団子作りを利用者が行っている。職員が手を出すと怒られるほど積極的に行っている。献立は、調理委員会(3名)で策定している。昼食のみ1階の小規模多機能事業所の厨房で調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎回記録し職員が把握している。 お茶やコーヒーなども好きな時に飲めるよう、セットしている。職員が提供する場合でもその都度確認し提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて声がけや介助を行っている。 歯科医師会の口腔ケアのボランティアより指導も受けケア向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し時間や行動を観察し、声掛けや誘導なども行っている。残存機能も活かせるようおむつやパットの使用も検討し対応している。	排泄が自立している利用者が8名で、1名が、一部介助の状態であるが、自立に向け対応中である。トイレに設置してある汚物入れを利用する時も、ほぼ自立で行っている状態である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立を作成しバランスの取れた食事が提供できるように心がけている。適度な運動、水分補給を促し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、入浴の順番や組み合わせ、同姓での介助など希望に添える部分で対応している。	浴槽に入ると息苦しいという利用者は、シャワー浴で対応している。入浴を嫌がる時は、無理強いせず、タイミングを見計らって、入浴を促している。気の合った利用者が一緒に入浴する例もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体調も踏まえながら家事や買物、散歩など活動を促し、質の良い休息が取れるよう使い慣れた布団を持ち込んで日中の活動を促し良眠支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬状況把握のため、薬の説明書をファイルに綴り常に確認できる様にし、看護師の指示のもと支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買物、余暇時間や夜間の晩酌など、以前の生活のなかで楽しんでいたことを続けて行けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人のペースや体調に合わせて、希望があれば近隣への買物や散歩などの支援を行っている。今年はイオンタウン釜石がオープンしたため、見学を兼ねて買い物ツアーを行った。事業所での対応が難しい時には家族に依頼し出かけている。	利用者同士が居室で「お茶会」をすることが多く、そのためのお菓子を買いいに出かける人がいる。仏壇や位牌に備える花を買ってくる人や、晩酌用の梅酒やビールを買いいに出かける人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて現金の管理はしているが、出来る方には財布をそのまま渡して買物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話や手紙のやり取りができるような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	棚や玄関に、利用者が購入した植木や花、散歩で摘んできた花などを飾り、手入れも利用者自身で行って頂き、利用者が好みに空間作りが出来るよう支援している。 その上で常に清潔さを保てるよう心がけている。	文化祭では利用者の作品を展示するが、普段は利用者が持ち込んだ植物が配置されている。訪問時にも多くの植物が廊下窓側の物置棚の上に手入れが行き届いた状態で並べられていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士でくつろげるようホールスペースにソファをおき、廊下にもベンチを設置している。更に一人の時間も持てるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具類など出来る限り馴染みのものを使用して頂き、他にも写真や位牌、仏壇、趣味を楽しめる物など、特に制限などは設けず居室を飾っていただいている。 更に位牌や仏壇へのお供え物にも配慮している。	ベット・クローゼット・エアコンは、備え付けである。利用者は、仏壇、位牌、電子ピアノ、冷蔵庫など自由に持ち込んでいる。仏壇に、毎朝、水とご飯をお供えしている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来ること解ることを把握して、見守りやさりげない支援を心がけている。		